



# マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

---

準備する

---

映像や音源を楽しむ

---

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

# 本機のマニュアルについて

本機には、以下のマニュアルをご用意しています。  
それぞれのマニュアルで説明している内容は、下記のとおりです。



スタート  
ガイド



取扱説明書  
(本書)



ヘルプガイド  
(オンライン)

## 準備する

- 設置する
- 接続する
- 初期設定をする

## 基本操作

- 映像や音源を楽しむ

## 応用操作

- 映像や音源を楽しむ

## 応用操作

- BLUETOOTH機能を使う
- その他の機能を使う
- 設定を調節する

## 困ったときは

## ご注意／仕様



ヘルプガイドをご覧になるには、下記URLを入力して  
ください。

<http://rd1.sony.net/help/ha/strdh77/ja/>



## 警告



このマークは「高温注意 (Hot Surface)」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じることがあります。

## この取扱説明書の見かた

- ・本書ではリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。
- ・イラストは細かい部分をはぶいて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・本書では、テレビ画面上の表示は「[ ]」、表示窓の表示は「「」」をつけて表します。

## 商標について

本機はドルビー\* デジタルデコーダー (EX) およびドルビープロロジック (II, IIx)、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS\*\* (DTS-ES および DTS 96/24) デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

\* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

\*\* DTS の特許については下記をご覧ください。

<http://patents.dts.com>.

DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、DTS およびシンボルの組み合わせは DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載しています。HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、Apple ロゴ、iPhone、iPod、iPod touch、及び Retina は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

「Made for iPod」「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品を iPod、又は iPhone と共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品には Microsoft Corporation の知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft および Microsoft 関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または発布することは禁じられています。

本機は Fraunhofer IIS および Thomson の MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

“ブレビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。

BLUETOOTH® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

N-Mark は米国およびその他の国における NFC Forum, Inc. の商標または登録商標です。

Android™ は Google Inc. の商標です。

Google Play™ は Google Inc. の商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、® マークは明記していません。

# 目次

本機のマニュアルについて	2
この取扱説明書の見かた	3
付属品	5
各部の名前と働き	6

## 準備する

スピーカーを設置する	12
スピーカーを接続する	15
テレビを接続する	21
AV機器を接続する	25
アンテナを接続する	27
電源コードをつなぐ	27
かんたん設定を使って初期設定を行う	28

## 映像や音源を楽しむ

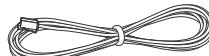
音声／映像を楽しむ	32
音響効果を楽しむ	33

## その他

困ったときは	36
使用上のご注意	39
保証書とアフターサービス	42
主な仕様	43

# 付属品

- リモコン (1)
- 単4形マンガン乾電池 (2)
- FMアンテナ線 (1)

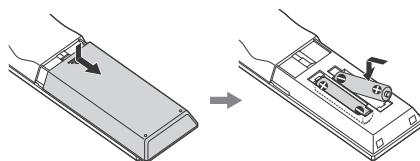


- 測定用マイク (1)



## リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池（付属）を2個入れます。+と-の向きを正しく入れてください。



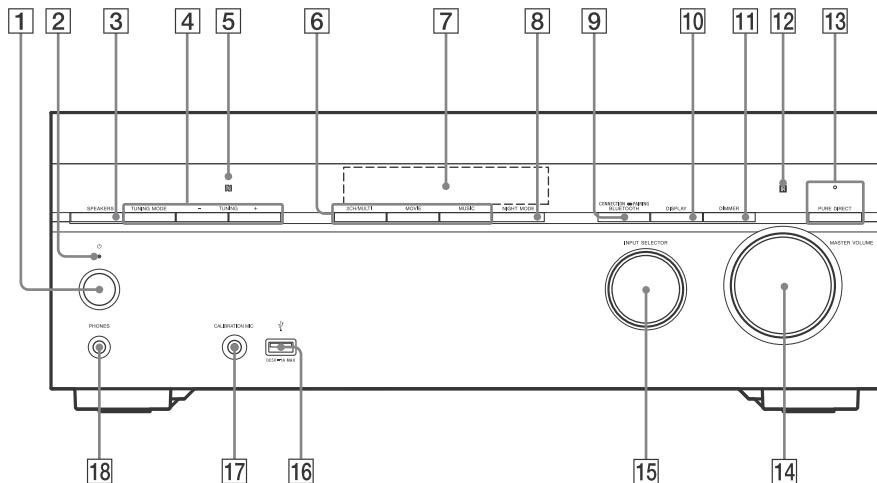
## ご注意

- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てるでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り換えてください。

# 各部の名前と働き

## 本体

### 前面



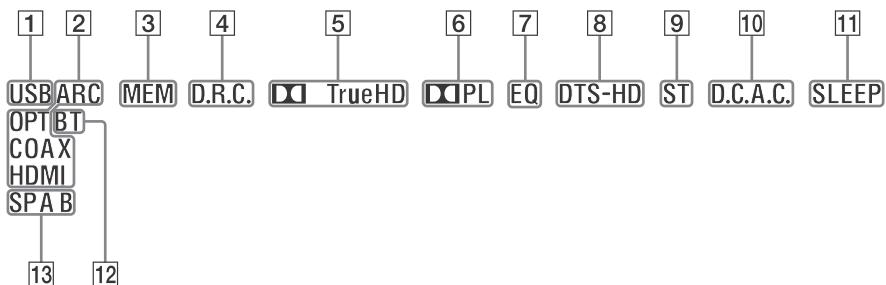
- ① Ⓜ (電源) ボタン (27ページ)
- ② 電源表示ランプ
- ③ SPEAKERSボタン (29ページ)
- ④ TUNING MODEボタン、TUNING +/- ボタン  
内蔵のFMチューナーを操作するボタンです。  
TUNING +/- ボタンを押して選局します。
- ⑤ NFCセンサー
- ⑥ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、MUSICボタン (33、34ページ)
- ⑦ 表示窓 (8ページ)
- ⑧ NIGHT MODEボタン
- ⑨ CONNECTION ●PAIRING  
BLUETOOTHボタン  
BLUETOOTH機能を操作します。
- ⑩ DISPLAYボタン
- ⑪ DIMMERボタン  
表示窓の明るさを3段階で調節します。
- ⑫ リモコン受光部  
リモコンからの信号を受信します。
- ⑬ PURE DIRECTボタン  
ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。
- ⑭ MASTER VOLUMEつまみ (32ページ)
- ⑮ INPUT SELECTORつまみ (32ページ)
- ⑯ Ⓛ (USB) ポート
- ⑰ CALIBRATION MIC端子 (30ページ)
- ⑱ PHONES端子  
ヘッドホンをつなぎます。

## 電源表示ランプ

- ・緑色：本機の電源が入っています。
- ・オレンジ色：本機がスタンバイ状態で、次のいずれかの設定になっています。
  - 「CTRL HDMI」：「CTRL ON」
  - 「BT STANDBY」：「STBY ON」\*
  - 「STBY THRU」：「ON」または「AUTO」
- ・消灯：本機がスタンバイ状態で、以下の設定になっています。
  - 「CTRL HDMI」：「CTRL OFF」
  - 「BT STANDBY」：「STBY OFF」
  - 「STBY THRU」：「OFF」

\* BLUETOOTH機能を使って、本機と外部機器をペアリングしているときのみ表示ランプがオレンジ色に点灯します。本機とペアリングされている機器がない場合は表示ランプは消灯します。

## 表示窓上のインジケーター



### ① USB

USB機器が検出されると点灯します。

### ② 入力表示

現在の入力を表示します。

#### ARC

テレビ入力が選択され、オーディオリターンチャンネル (ARC) 信号が入力されています。

#### OPT

光デジタル音声端子からデジタル信号が入力されています (22、24ページ)。

#### COAX

同軸デジタル音声端子からデジタル信号が入力されています (26ページ)。

#### HDMI

選択した機器からのデジタル信号が、HDMI端子から入力されています (22、23、25ページ)。

### ③ MEM

FMチューナーのメモリー機能が働いています。

### ④ D.R.C.

ダイナミックレンジ調整が働いています。

### ⑤ TrueHD\*

ドルビーレンジHDフォーマットの信号をデコードしているときに点灯します。

### ⑥ ドルビープロロジック表示

ドルビープロロジックフォーマットの信号を処理しています。

マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張できます。

### ご注意

スピーカーパターンの設定によっては表示ランプが点灯しない場合があります。

### ⑦ EQ

イコライザーが働いています。

### ⑧ DTS (-HD) 表示\*

DTS-HDフォーマットの信号をデコードしているときに点灯します。

### ⑨ ST

ステレオ放送を受信しています。

### ⑩ D.C.A.C.

自動音場補正の測定結果が適用されています。

### ⑪ SLEEP

スリープタイマーが働いています。

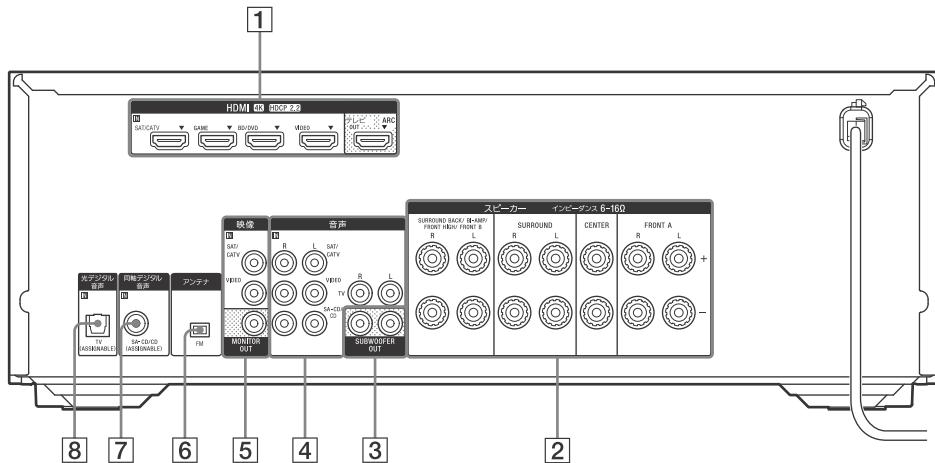
### ⑫ BT

BLUETOOTH機器が接続されているときに点灯します。ペアリング開始から接続が確立するまでの間は点滅します。

### ⑬ スピーカーシステム表示 (29ページ)

\* ドルビーデジタルフォーマット、またはDTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続を行い「INPUT MODE」を「ANALOG」以外に設定します。

## 後面



- ① HDMI IN/OUT端子\*** (22、23、25ページ)
- ② スピーカー端子** (16、17、18、19、20ページ)
- ③ SUBWOOFER OUT端子** (16、17、18、19、20ページ)
- ④ 音声IN端子** (22、24、26ページ)
- ⑤ 映像IN/MONITOR OUT端子** (24、26ページ)
- ⑥ FMアンテナ端子** (27ページ)
- ⑦ 同軸デジタル音声IN端子** (26ページ)
- ⑧ 光デジタル音声IN端子** (22、24ページ)

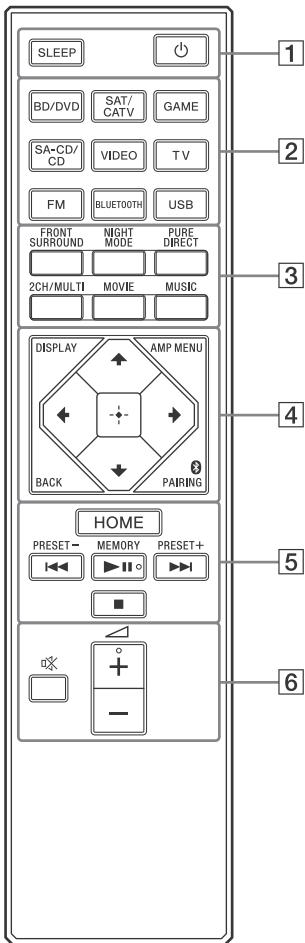
\* HDCP2.2に対応しています。HDCP2.2は4K映画などのコンテンツを保護するため、新たに高性能化された著作権保護技術です。

これらの入力端子から入力した映像を見るには、それぞれの入力に応じた出力端子にテレビをつないでください。

入力端子	出力端子
HDMI IN	HDMI テレビ OUT
映像IN	MONITOR OUT

詳しくは「テレビを接続する」(21ページ)をご覧ください。

# リモコン



## ① ⌂ (電源) ボタン

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

以下のとおり設定すると、電力消費を抑えられます。

- 「<HDMI>」メニューで「CTRL HDMI」を「CTRL OFF」に設定する。
- 「<BT>」メニューで「BT STANDBY」を「STBY OFF」に設定する。
- 「<HDMI>」メニューで「STBY THRU」を「OFF」に設定する。

## SLEEPボタン

指定した時間に自動的に電源が切れるよう設定できます。

## ② 入力切替ボタン

ご希望の機器を接続した入力チャンネルを選びます。いずれかの入力切替ボタンを押すと、本体の電源がります。

## ③ FRONT SURROUNDボタン、2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、MUSICボタン

サウンドフィールド（音場）を選びます。

## NIGHT MODEボタン

ナイトモード機能をオンにします。

## PURE DIRECTボタン

ピュアダイレクト機能をオンにします。

## ④ DISPLAYボタン

情報を表示窓に表示します。

## AMP MENUボタン

本機を操作するためのメニューが表示窓に表示されます。

## BACKボタン

メニューまたはオスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

## ⌚ PAIRINGボタン

本機をペアリングモードにします。

## ⊕(決定)ボタン、↖/↑/↙/↗ ボタン

↖、↑、↙、↗ ボタンを押してメニュー項目を選び、⊕ ボタンを押して決定します。

## ⑤ HOMEボタン

テレビ画面にホームメニューを表示させます。

◀◀/▶▶ (前へ／次へ) ボタン、

▶⏸ (再生／一時停止) ボタン\*、

■ (停止) ボタン

スキップ、再生、一時停止、停止の操作を行います。

PRESET +/-ボタン

プリセットした局やチャンネルを選びます。

MEMORYボタン

受信中の放送局を登録します。

## ⑥ ▷ (音量) +/-ボタン

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

※ (消音) ボタン

音を一時的に消します。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

\* ▶⏸/MEMORYボタンおよび▷ + ボタンには凸点（突起）が付いています。本機を操作するとき、操作の目印としてお使いください。

## ご注意

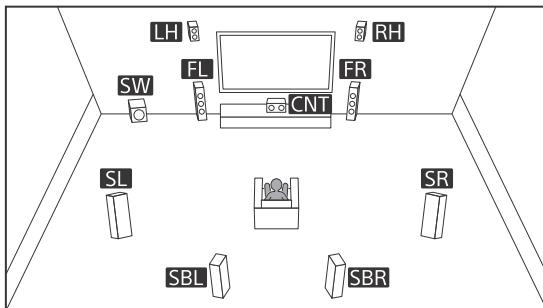
- ・上記の説明は例としてあげています。
- ・つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

## 準備する

# スピーカーを設置する

本機には、最大7台のスピーカーと2台のアクティブサブウーファーを接続することができます。お好みのスピーカーシステムに合わせてスピーカーとアクティブサブウーファーを設置してください。

## 各スピーカーの位置



### ご注意

- サラウンドバックスピーカー（SB）を1台だけつなぐ場合は、サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに置いてください。
- アクティブサブウーファー（SW）から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

## スピーカーの名前と機能

図で使われている略称	スピーカー名	機能
FL	フロントLスピーカー	
FR	フロントRスピーカー	フロントL／フロントRチャンネルのステレオ音声を出力します。
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声（セリフやボーカルなど）を再生します。
SL	サラウンドLスピーカー	サラウンドL／サラウンドRチャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンドRスピーカー	

図で使われている略称	スピーカー名	機能
SBL	サラウンドバックL スピーカー	サラウンドバックL／サラウンドバックRチャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバックR スピーカー	
SB	サラウンドバック スピーカー	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブwoofer ファー	LFE（低域効果音）チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
LH	フロントハイL スピーカー	フロントハイL／フロントハイRチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。
RH	フロントハイR スピーカー	

## スピーカー構成とスピーカーパターンの設定

お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選びます。

スピーカー構成	「SB ASSIGN」*	「<SPEAKER>」× ニューで選べるスピーカー <sup>ページ</sup> パターン	
5.1チャンネル	「OFF」	「3/2.1」	16
7.1チャンネル（サラウンドバックスピーカー使用）	—	「3/4.1」	17
7.1チャンネル（フロントハイスピーカー使用）	—	「5/2.1」	18
5.1チャンネル（バリアンプ接続）	「BI-AMP」	「3/2.1」	19
5.1チャンネル（フロントBスピーカー使用）	「SPK B」	「3/2.1」	20

\*スピーカーパターンをサラウンドバックおよびフロントハイスピーカーを使わない設定にしたとき「SB ASSIGN」を設定できます。

### スピーカーパターンを選ぶ

- AMP MENUボタンを押す。
- ↑/↓ボタンを押して「<SPEAKER>」を選び、□ボタンを押す。
- ↑/↓ボタンを押して「SP PATTERN」を選び、□ボタンを押す。
- ご希望のスピーカーパターンを選び、□ボタンを押す。

## スピーカーパターンの設定

例：

**5** / **2** . **1**

2フロント +  
2フロントハイ  
+センター  
スピーカー

2サラウン  
ドスピーカー

アクティブ  
サブウーファー

スピーカー パターン	フロント L/R スピーカー	センター スピーカー	サラウン ドL/ Rスピーカー	サラウン ドバック Lスピーカー	サラウン ドバック Rスピーカー	アクティ ブサブ ウーファー	フロント ハイL/R スピーカー
5/2.1	○	○	○	-	-	○	○
5/2	○	○	○	-	-	-	○
4/2.1	○	-	○	-	-	○	○
4/2	○	-	○	-	-	-	○
3/4.1	○	○	○	○	○	○	-
3/4	○	○	○	○	○	-	-
2/4.1	○	-	○	○	○	○	-
2/4	○	-	○	○	○	-	-
3/3.1	○	○	○	○	-	○	-
3/3	○	○	○	○	-	-	-
2/3.1	○	-	○	○	-	○	-
2/3	○	-	○	○	-	-	-
3/2.1	○	○	○	-	-	○	-
3/2	○	○	○	-	-	-	-
2/2.1	○	-	○	-	-	○	-
2/2	○	-	○	-	-	-	-
3/0.1	○	○	-	-	-	○	-
3/0	○	○	-	-	-	-	-
2/0.1	○	-	-	-	-	○	-
2/0	○	-	-	-	-	-	-

- : 使用しません。

○: 使用します。

# スピーカーを接続する

本機には、最大7.1チャンネルまでスピーカーを接続することができます。

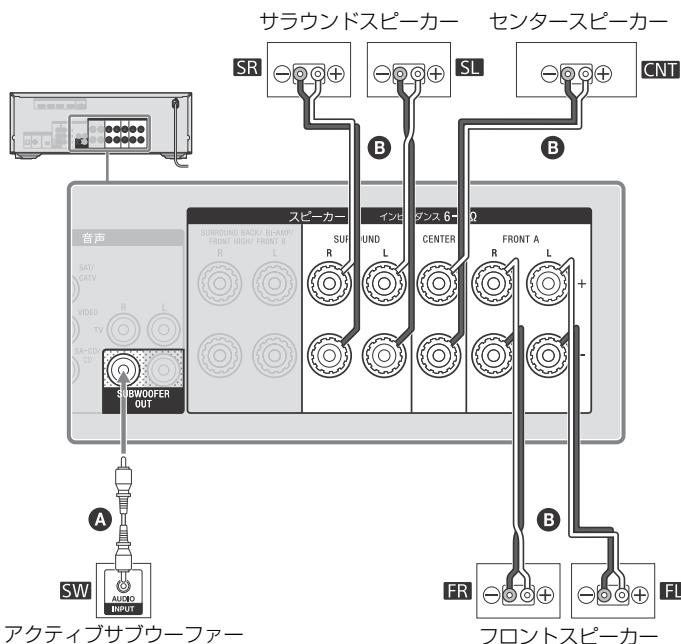
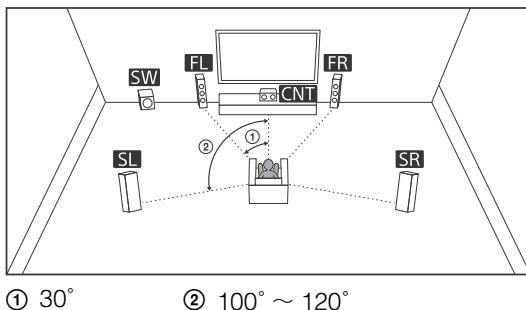
次ページからのスピーカー配置図は、スピーカーの理想的な配置例です。お使いのスピーカーを図とまったく同じように配置する必要はありません。

## ご注意

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーケーブルの金属ワイヤーが他の端子と接触していないことを確認してください。
- オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつないで映画を見るときは、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声が聞こえなくなることがあります。
- 最大2台までのアクティブサブウーファーをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

## スピーカーの接続例

### 5.1チャンネルスピーカーシステム



- Ⓐ モノラル音声ケーブル（別売）
- Ⓑ スピーカーケーブル（別売）

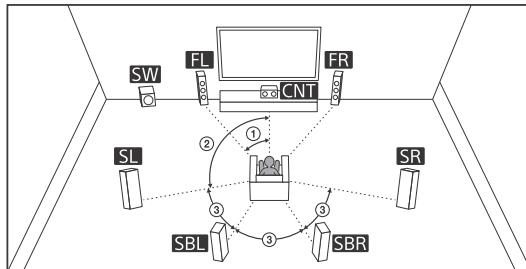
接続後、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [None Speaker] に設定してください。

#### ちょっと一言

[Easy Setup] からも [SURROUND BACK SPEAKERS ASSIGN] を [No speaker is connected] に設定することができます。

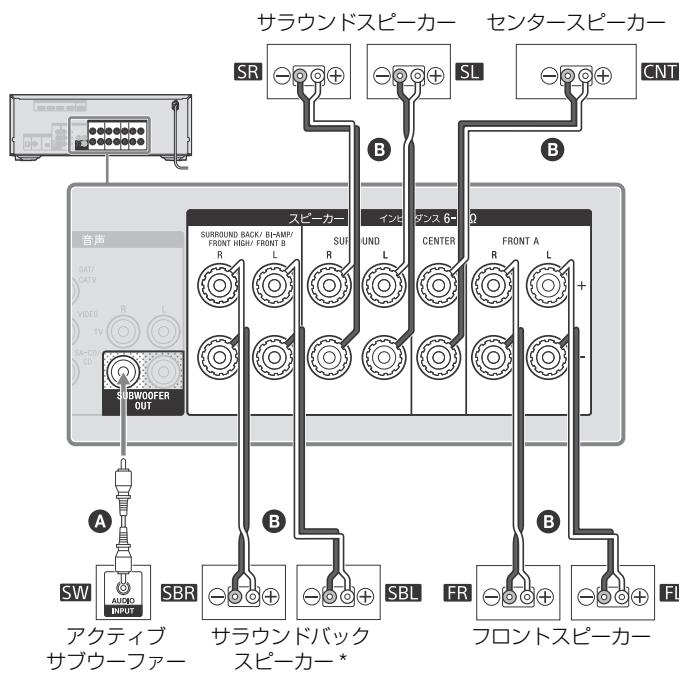
## 7.1チャンネルスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカーをつなぐ場合）

準備する



① 30°  
③ 同角度

② 100° ~ 120°



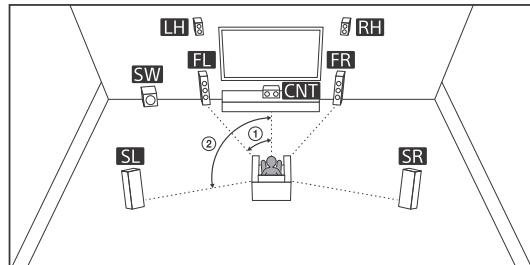
**A** モノラル音声ケーブル（別売）

**B** スピーカーケーブル（別売）

\* サラウンドバックスピーカーを1台だけ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーを L (+/-) 端子に接続してください。

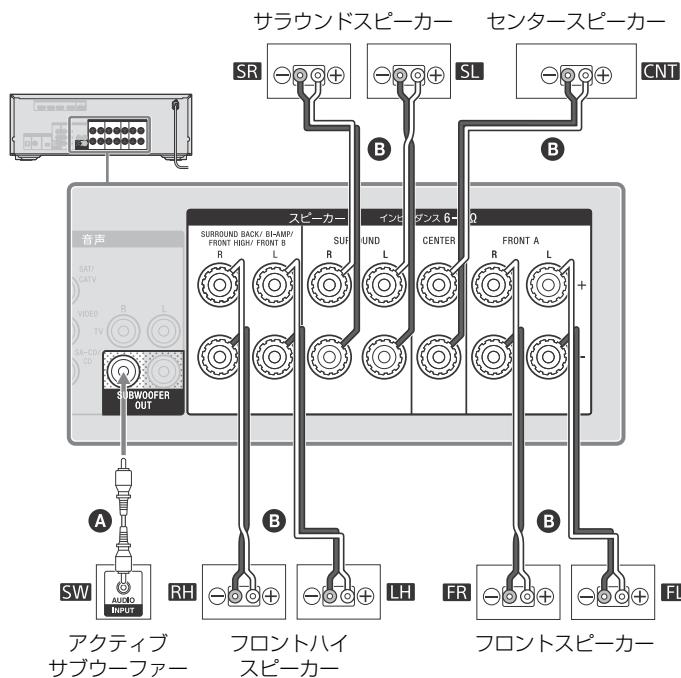
接続後、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [Surround Back Speakers] に設定してください。

## 7.1チャンネルスピーカーシステム（フロントハイスピーカーをつなぐ場合）



① 30°

② 100° ~ 120°



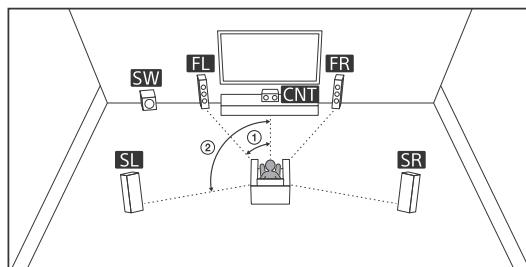
**A** モノラル音声ケーブル（別売）

**B** スピーカーケーブル（別売）

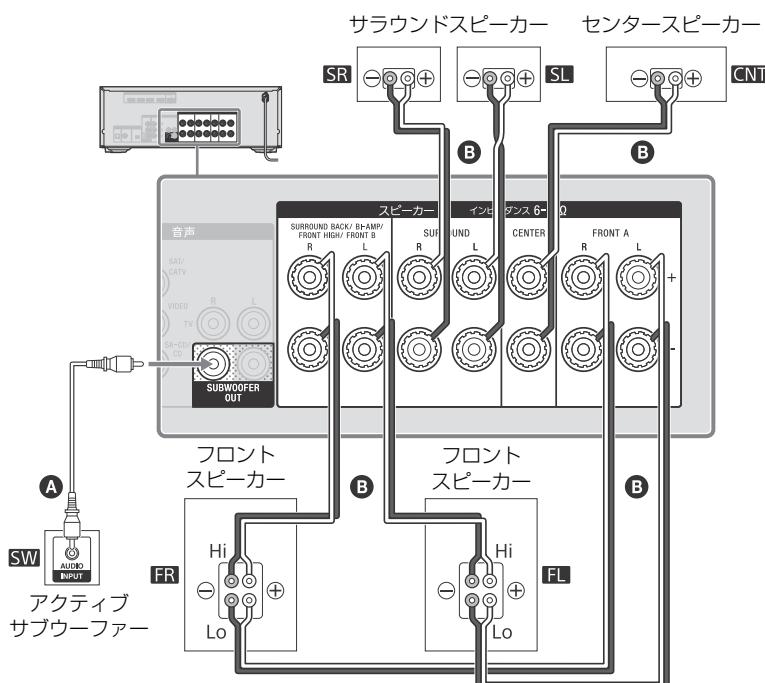
接続後、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [Front High Speakers] に設定してください。

## 5.1チャンネルスピーカーシステム（バイアンプ接続を使う場合）

バイアンプ接続を利用して、複数のアンプをツイーターとウーファーの両方に接続することで、より高音質の再生を楽しむことができます。



準備する



**A** モノラル音声ケーブル（別売）

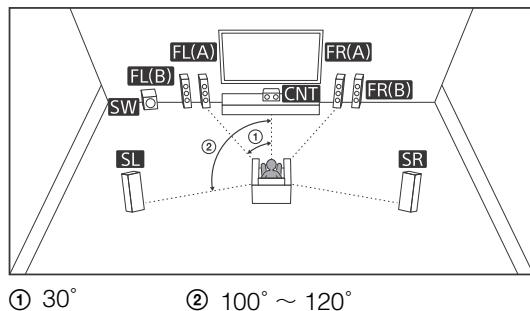
**B** スピーカーケーブル（別売）

本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ずはずしてください。

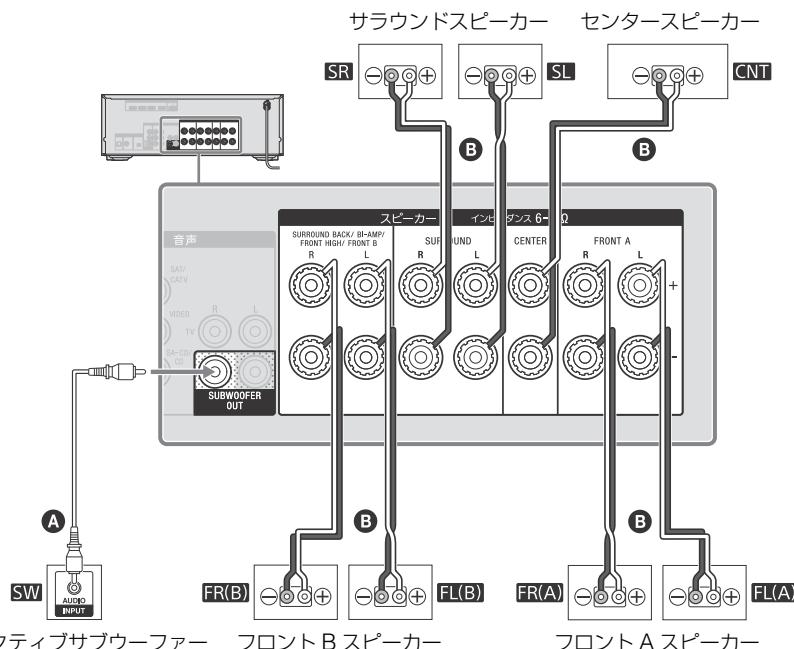
接続後、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [Bi-Amplifier Speakers] に設定してください。

## 5.1チャンネルスピーカーシステム（フロントBスピーカーをつなぐ場合）

もう一組のフロントスピーカーシステムを使う場合、スピーカー SURROUND BACK/BIA-AMP/FRONT HIGH/FRONT B 端子につなぎます。



① 30°      ② 100° ~ 120°



**A** モノラル音声ケーブル（別売）

**B** スピーカーケーブル（別売）

接続後、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [Front B Speakers] に設定してください。

本体前面のSPEAKERSボタンを使って、ご希望のフロントスピーカーシステムを選びます（29ページ）。

# テレビを接続する

テレビをHDMIテレビOUT端子またはMONITOR OUT端子に接続します。HDMIテレビOUT端子に接続した場合、テレビ画面に表示されるメニューを使って本機を操作することができます。

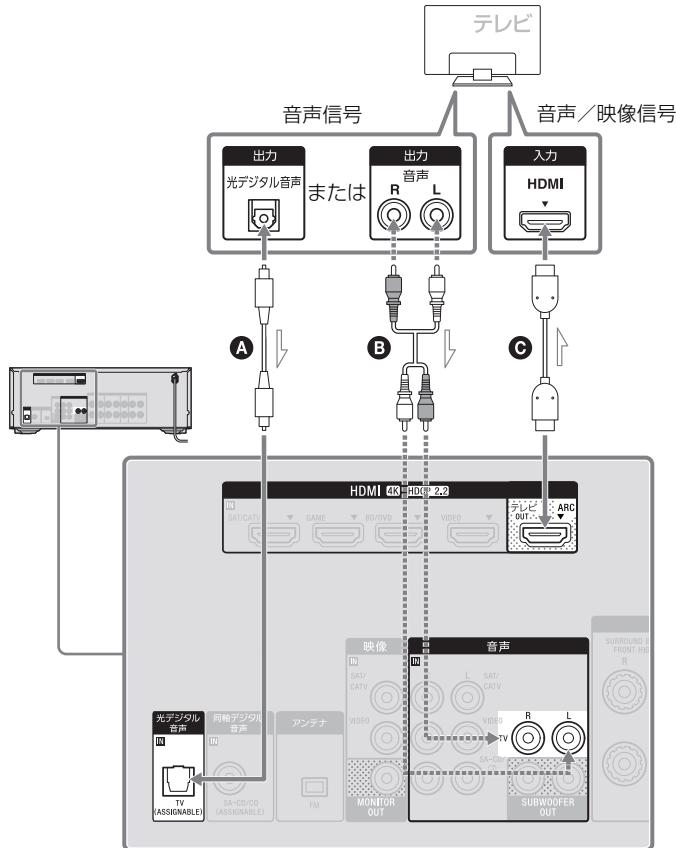
4Kテレビの接続については、ヘルプガイドをご覧ください。

## 接続についての注意事項

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- テレビまたはプロジェクターを本機のHDMIテレビOUT端子またはMONITOR OUT端子に接続します。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。HDMI認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルのご使用をおすすめします。  
4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要となります。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声が正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- テレビとアンテナの接続状態によってはテレビ画面の画像が歪んで見えることがあります。その場合、本機からアンテナを離して置いてください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐ場合、プラグをカチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたりしないでください。
- デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHzおよび44.1 kHz、48 kHz、96 kHzに対応しています。
- テレビを本機の音声IN TV端子につなぐ場合は、テレビの音声出力端子に「固定」または「可変」の設定があるときは、「固定」に設定してください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は、HDMI信号フォーマットの設定をしてください。詳しくは「HDMI信号フォーマットを設定する」(32ページ)をご覧ください。

## HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能非対応のテレビをつなぐ

HDMI **C**の接続に加え、光デジタル音声ケーブル**A**または音声ケーブル**B**での接続が必要です。

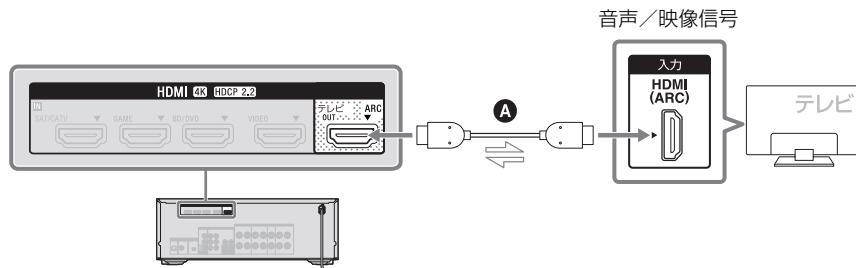


- A** 光デジタル音声ケーブル（別売）
- B** 音声ケーブル（別売）
- C** HDMIケーブル（別売）

— 推奨する接続  
- - - 代替接続

## HDMI接続でオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応のテレビをつなぐ

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。テレビへの映像／音声信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。



**A** HDMIケーブル（別売）

### ご注意

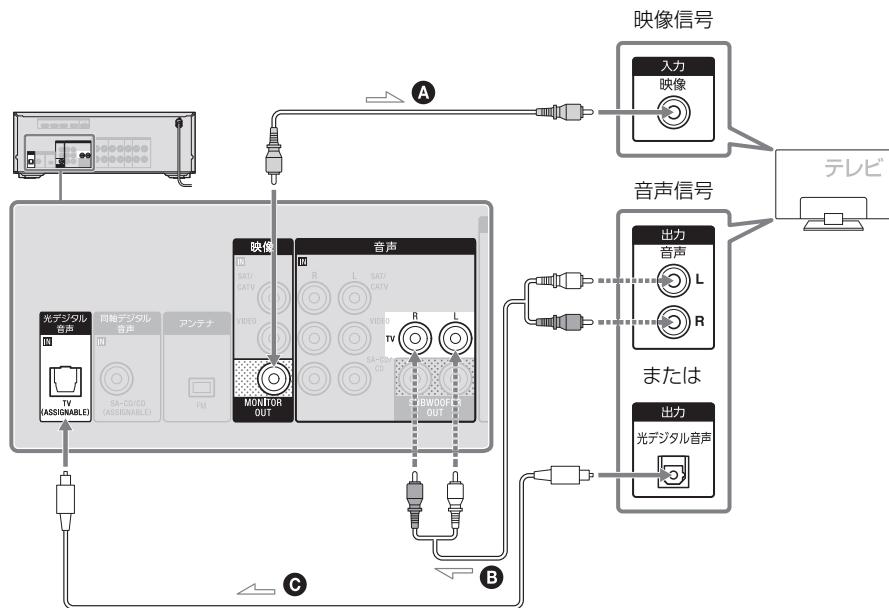
この接続時は、HDMI機器制御をオンにする必要があります。AMP MENUボタンを押して、「<HDMI>」メニューの「CTRL HDMI」を選んで「CTRL ON」を選んでください。

### ちょっと一言

テレビのHDMI端子（「ARC」表示のある端子）がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続しなおしてください。

## HDMI端子がないテレビをつなぐ

映像ケーブル**A**の接続に加え、光デジタル音声ケーブル**C**または音声ケーブル**B**での接続が必要です。



**A** 映像ケーブル（別売）

**B** 音声ケーブル（別売）

**C** 光デジタル音声ケーブル（別売）

—— 推奨する接続

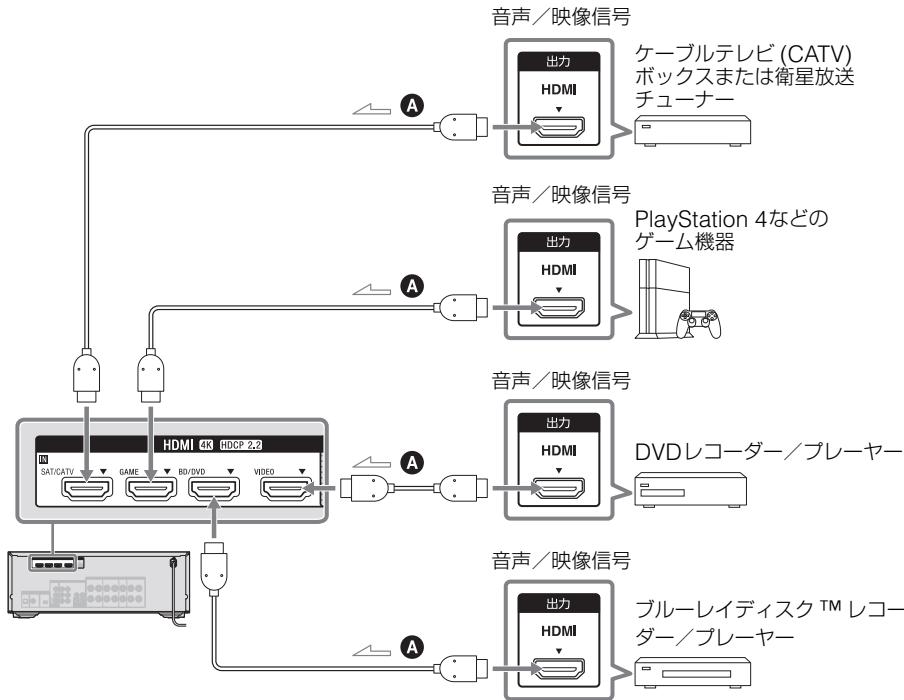
----- 代替接続

# AV機器を接続する

## HDMI端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

HDMI端子はHDCP 2.2に対応しています。4KコンテンツなどのHDCP 2.2で保護されたコンテンツを見るとときは、これらのHDMI端子とテレビや再生機器のHDCP 2.2対応のHDMI端子をつなぎます。詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。



A HDMIケーブル（別売）

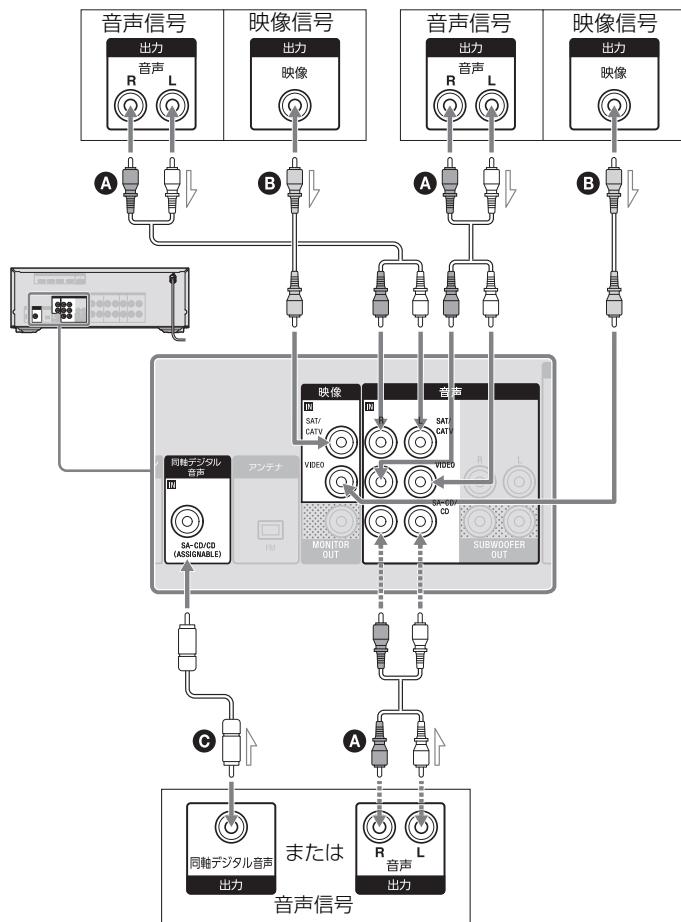
### ちょっと一言

- このHDMI接続は一例です。各HDMI機器はどのHDMI入力でも接続することができます。
- 画質は接続端子によって異なります。お使いの機器にHDMI端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

# HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

ケーブルテレビ (CATV) ボックス、ビデオデッキ、DVDレコーダー、カムコーダー、ビデオゲーム



Ⓐ 音声ケーブル (別売)

Ⓑ 映像ケーブル (別売)

Ⓒ 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

— 推奨する接続

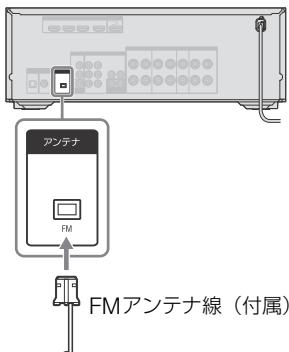
- - - - 代替接続

## ちょっと一言

それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。設定についての詳細はヘルプガイドの「各入力の名前を変更する (NAME IN)」をご覧ください。

## アンテナを接続する

アンテナをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



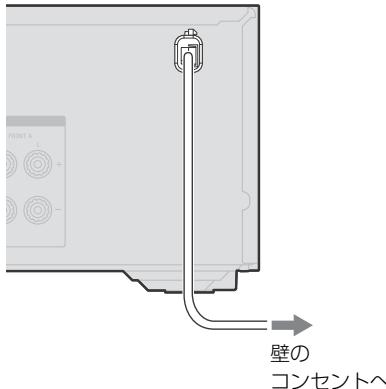
### ご注意

- FMアンテナ線をしっかりと伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるよう設置してください。

## 電源コードをつなぐ

電源コードをつなぐ前に、スピーカーや他の機器が接続されていることを確認してください。

### 1 電源コードをコンセントにつなぐ。

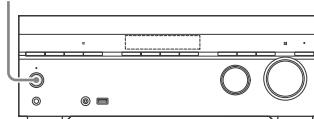


準備する

### 2 Ⓛ(電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。

電源を切るときは、もう一度 ⓘ(電源) ボタンを押します。

ⓘ(電源) ボタン



本体前面の ⓘ(電源) ボタンを押して本機の電源を入れることもできます。

### ご注意

電源を切ると、表示窓に「STANDBY」が点滅します。「STANDBY」が点滅している間は電源コードを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

# かんたん設定を使って初期設定を行う

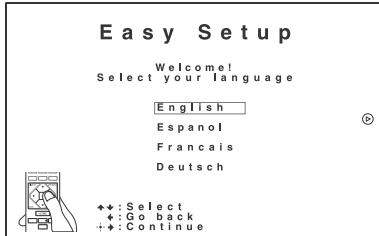
本機の初期設定を行うにはHDMIケーブルでテレビに接続してください（22、23ページ）。

テレビの入力を本機を接続した入力に切り替えます。

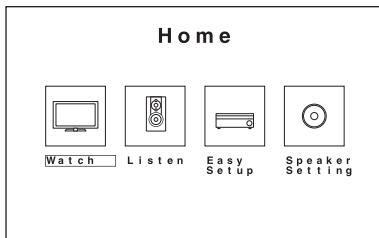
## ご注意

表示窓の表示を使ってかんたん設定の操作を行うことはできません。

本機の電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。



かんたん設定画面が表示されない場合、かんたん設定を手動で表示させるには、HOMEボタンを押して [Easy Setup] を選びます。



## かんたん設定で可能な操作

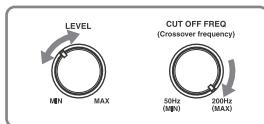
かんたん設定を行うことで以下の設定ができます：

- 1 : 言語を選ぶ
- 2 : サラウンドバックスピーカー設定を選ぶ  
スピーカー SURROUND BACK/BIA-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の割り当てを設定します。
- 3 : 自動音場補正を行う  
お使いのスピーカー構成、配置に応じて自動音場補正を行います。

## 自動音場補正を行う前に

- ヘッドホンを取りはずしてください。
- 測定用マイクとスピーカー間の障害物を取り除いてください。
- 正しい測定をするために、周囲の環境が静かであること、騒音がないことを確認してください。
- スピーカー出力を「SPK OFF」以外の設定にしてください。詳しくは「フロントスピーカーを選ぶ」（29ページ）をご覧ください。
- アクティブサブウーファーの設定を確認してください。
  - アクティブサブウーファーを使用する設定にする前に、アクティブサブウーファーをつなぎ電源を入れて、アクティブサブウーファーの音量を上げます。音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。
  - クロスオーバー周波数機能付のアクティブサブウーファーを接続するときは、設定値を最大にしてください。

- オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつなぐときは、オフ（無効）に設定してください。

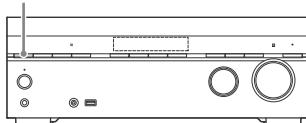


### ご注意

お使いのアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

### フロントスピーカーを選ぶ

SPEAKERSボタン



#### SPEAKERSボタンを繰り返し押す。

どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

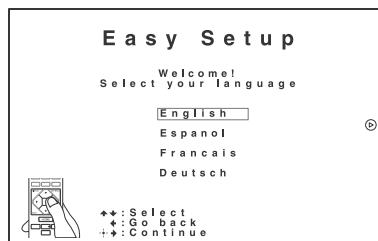
- **SP A**：スピーカー FRONT A端子に接続したスピーカー。
- **SP B\***：スピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子に接続したスピーカー。
- **SP A B\***：スピーカー FRONT Aとスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B端子の両方に接続したスピーカー（パラレル接続）。
- (表示なし)：「SPK OFF」と表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

\* 「SP B」または「SP A B」を選ぶには、[Speaker Setting] の [Surround Back Speakers Assign] を [Front B Speakers] に設定してください。

### ご注意

ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

## 1：言語を選ぶ

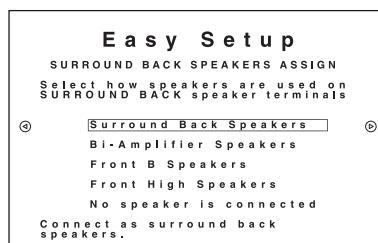


説明する

↑/↓ボタンを押して言語を選び、  
□ボタンを押す。

英語、スペイン語、フランス語、または  
ドイツ語が利用できます。

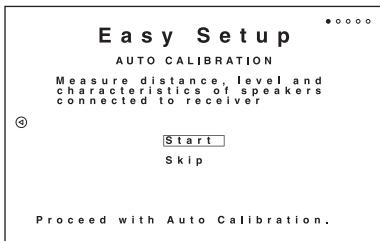
## 2：サラウンドバックスピーカー設定を選ぶ



↑/↓ボタンを押してサラウンドバックスピーカー設定を選び、  
□ボタンを押す。

お使いのスピーカー構成に合わせてサラウンドバックスピーカーの割り当てを行います（16～20ページ）。

### 3：自動音場補正を行う

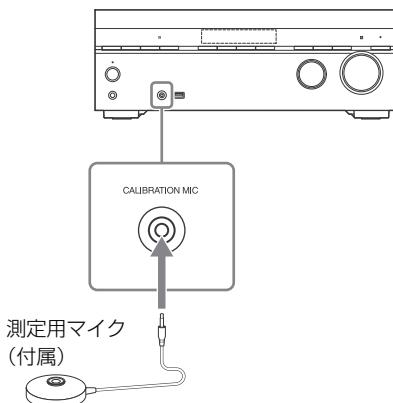


- 1 **↑/↓ボタンを押して [Start] を選び、[+ボタン] を押す。**

#### ちょっと一言

自動音場補正をあとで行いたいときは、[Skip] を選びます。

- 2 **付属の測定用マイクを CALIBRATION MIC 端子につなぎ、測定用マイクを視聴位置に設置する。**



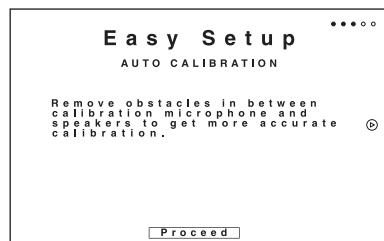
#### ご注意

- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。

- 自動音場補正を行う前にミュート（消音）機能がオンになっているときは、ミュート（消音）機能が自動的に解除されます。

- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。

- 3 **[Proceed] を選ぶ。**



- 4 **もう一度 [Proceed] を選ぶ。**

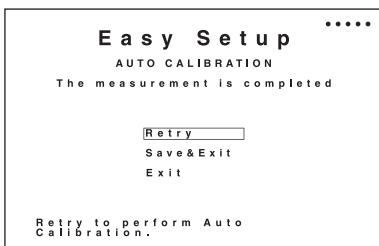


測定が完了するのにおよそ30秒かかり、テスト音が鳴り続けます。測定が終わると、ビープ音とともに画面が切り替わります。

#### ご注意

測定が失敗した場合は、メッセージに従い [Retry] を選びます。エラーコードおよび警告メッセージの詳細については、「自動音場補正測定後のメッセージリスト」(38 ページ) をご覧ください。

## 5 測定結果を確認する。



- ・[Retry]：もう一度自動音場補正を行います。
- ・[Save&Exit]：測定結果を保存し、設定操作を終了します。
- ・[Exit]：測定結果を保存しないで設定操作を終了します。

### ちょっと一言

アクティブサブウーファーの位置によっては測定結果が異なる場合があります。ただし、その値で本機を使い続けても問題はありません。

## 6 [Save&Exit] を選ぶ。



## 7 自動音場補正が終了しました。

測定用マイクを取りはずして [Exit] を選んでください。

自動音場補正をキャンセルするには測定中に次の動作を行うと自動音場補正是キャンセルされます。

- ⌂ (電源) ボタンを押す。
- リモコンの入力ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- ⓧ ボタンを押す。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押す。
- 音量を変える。
- ヘッドホンを接続する。

## 映像や音源を楽しむ

# 音声／映像を楽しむ

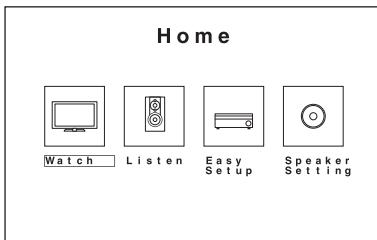
## AV機器で再生する

1 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機につないだ入力に切り替える。

### 2 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

テレビによっては、ホームメニューがテレビ画面に表示されるまでに時間がかかることがあります。



3  $\leftrightarrow/\downarrow$ ボタンを押して [Watch] または [Listen] を選び、 $\oplus$ ボタンを押す。

メニュー項目のリストがテレビ画面に表示されます。

4 再生したい機器を選ぶ。

5 その機器の電源を入れ、再生を開始する。

6  $\triangle/+/-$ ボタンを押して音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

## ご注意

次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

## ちょっと一言

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力ボタンを押してご希望の機器を選ぶことができます。
- 音量を調節するには本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うか、リモコンの  $\triangle/+/-$  ボタンを使います。
  - 音量をすばやく上げ下げするには  
- つまみを早く回す。  
- いずれかのボタンを押し続ける。
  - 音量を微調整するには  
- つまみをゆっくりと回す。  
- いずれかのボタンを押してすぐに離す。

## HDMI信号フォーマットを設定する

AMP MENUボタンを押して、「<HDMI>」メニューの「SIGNAL FMT.」を選び、ご希望の入力を選んで  $\square$  ボタンを押す。

- STANDARD**：標準フォーマット。拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
- ENHANCED**：拡張フォーマット。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10bitなどの高精細な4Kフォーマット信号を使う場合に選びます。

## ご注意

- 対応する映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。

- ・「ENHANCED」を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）を使用してください。
- ・拡張フォーマットを選んだ後に、画面に異常が表れた場合は、「STANDARD」に設定してください。
- ・ご使用のテレビによっては、テレビ側の設定変更が必要になる場合があります。

- ・サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファーから音声が出力されない場合があります。
- ・サウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

## 音響効果を楽しむ

### サウンドフィールドを選ぶ

スピーカーの接続または入力音源によって、さまざまなサウンドフィールド（音場）モードを選ぶことができます。

**FRONT SURROUNDボタン、  
2CH/MULTIボタン、MOVIEボ  
タン、MUSICボタンを押してお  
好みのサウンドフィールドを選  
ぶ。**

本体前面の2CH/MULTIボタン、  
MOVIEボタン、MUSICボタンでも設定  
できます。

各サウンドフィールドについての詳細は  
ヘルプガイドをご覧ください。

#### ご注意

- ・ヘッドホンで聞いているときは、ヘッドホン用のサウンドフィールドのみが表示されます。
- ・入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- ・音声フォーマットによって、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- ・選んだスピーカーパターンによっては「PLIIX MV」または「PLIIX MS」が表示されない場合があります。

## サウンドフィールドとスピーカー出力の関係

下の表は、どのサウンドフィールドを選ぶとどのスピーカーから音声が出力されるかの関係を示しています。

### 2chコンテンツ

サウンドフィールド		表示窓	フロント スピーカー	センター スピーカー	サラウンド スピーカー	サウンド バック スピーカー	アクティブ サブ ウーファー	フロント ハイ スピーカー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	-	-	-	-	-
	マルチチャンネルス テレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト (アナログ入力)	DIRECT	◎	-	-	-	-	-
	ダイレクト (その他)	DIRECT	◎	-	-	-	○*	-
MOVIE	HDデジタル・シネ マ・サウンド (ダイ ナミック/シアター /スタジオ)	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジッ クII Movie	PLII MV	◎	○	○	-	○	-
	ドルビープロロジッ クIIx Movie	PLIIX MV	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6シネマ	NEO6. CINEMA	◎	○	○	○	○*	-
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	-	-	-	○*	-
MUSIC	オーディオ エンハンサー	A. ENHANCER	◎	-	-	-	○	-
	コンサートホール	HALL	◎	○	○	○	○*	○
	ジャズクラブ	JAZZ	◎	○	○	○	○*	○
	ライブハウス	CONCERT	◎	○	○	○	○*	○
	スタジアム	STADIUM	◎	○	○	○	○*	○
	スポーツ	SPORTS	◎	○	○	○	○*	○
	ドルビープロロジッ クII Music	PLII MS	◎	○	○	-	○	-
	ドルビープロロジッ クIIx Music	PLIIX MS	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6ミュージック	NEO6. MUSIC	◎	○	○	○	○*	-

- : 音声が出力されません。

◎ : 音声が出力されます。

○ : 音声が出力されるかどうかはスピーカーパターンの設定によります。

\* スピーカーパターンの設定によっては [Speaker Setting] の [Size] が [Small] のとき音声が出力されます。

# マルチチャンネルコンテンツ

映像や音源を楽しむ

サウンドフィールド		表示窓	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	アクティブサブウーファー	フロントハイスピーカー
2CH/MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	-	-	-	-	-
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○
MOVIE	HDデジタル・シネマ・サウンド(ダイナミック/シアター/スタジオ)	HD-D.C.S.	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Movie	PLII MV	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx Movie	PLIIx MV	◎	○	○	○	○	-
	Neo:6シネマ	NEO6.CINEMA	◎	○	○	○	○	○
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	◎	-	-	-	○	-
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○
	コンサートホール	HALL	◎	○	○	○	○	○
	ジャズクラブ	JAZZ	◎	○	○	○	○	○
	ライブハウス	CONCERT	◎	○	○	○	○	○
	スタジアム	STADIUM	◎	○	○	○	○	○
	スポーツ	SPORTS	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックII Music	PLII MS	◎	○	○	○	○	○
	ドルビープロロジックIIx Music	PLIIx MS	◎	○	○	○	○	-
Neo:6ミュージック		NEO6.MUSIC	◎	○	○	○	○	○

- : 音声が output されません。

◎ : 音声が output されます。

○ : 音声が outputされるかどうかは、スピーカーパターンの設定や入力ソースのチャンネルによります。

## ご注意

音声が聞こえない場合は、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかりとつながれていること（15 ページ）と正しいスピーカーパターンが選ばれていること（13 ページ）を確認してください。

## その他

# 困ったときは

本機を操作中に問題が発生したら、お近くのソニー販売店にお問い合わせになる前に、問題を解決するため以下の確認をしてください。

- ・「困ったときは」の項目にその問題が記載されているかを確認してください。
- ・問題の解決法はオンラインのヘルプガイドに記載されている場合があります。ヘルプガイドでは、キーワードを入力して検索できます。

<http://rd1.sony.net/help/ha-strdh77/ja/>

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

## 全体

### 本機の電源が自動的に切れてしまう。

- ・「AUTO STBY」を「STBY OFF」に設定してください。
- ・スリープタイマーが働いています。
- ・「PROTECTOR」が働いています（38ページ）。

### 表示窓が消えてしまう。

- ・本体前面のPURE DIRECTランプが点灯していたら、PURE DIRECTボタンを押してこの機能をオフにします。
- ・本体前面のDIMMERボタンを押して表示窓の明るさを調節します。

## 画像

### テレビ画面に画像が表示されない。

- ・入力ボタンを使って、正しい入力を選んでください。
  - ・お使いのテレビを正しい入力モードに設定してください。
  - ・お使いのオーディオ機器をテレビから離してください。
  - ・ケーブルが機器に正しくしっかりとつながれていることを確認してください。
  - ・「<HDMI>」メニューで、選ばれている入力の「SIGNAL FMT.」を「STANDARD」に設定してください。
  - ・再生機器の設定をする必要があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
  - ・特に1080pやDeep Color、4Kまたは3D送信で画像を見たり音声を聞いたりする場合は必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなどには18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）が必要になります。
  - ・HDCP 2.2のコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP 2.2対応のHDMI入力端子に接続してください。
- ### テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない。
- ・テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。本機が対応している3D HDMI 映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。
  - ・必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。

## テレビ画面に4Kコンテンツが表示されない。

- ・テレビまたはビデオ機器によっては4Kコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- ・必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。
- ・4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル（イーサネット対応）のご使用をおすすめします。
- ・お使いのテレビに「HDMI信号フォーマット」に相当するメニュー（高帯域幅を必要とする映像信号の受信可否を決める設定メニュー）がある場合、本機で「ENHANCED」（32ページ）を選ぶときはテレビメニューの設定も確認してください。テレビメニューの設定についての詳細は、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ・必ず本機を4K対応のテレビまたはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4K解像度のビデオコンテンツなどの再生機器を使うときは、必ずHDMIケーブルをHDCP 2.2対応のHDMI端子につないでください。

## テレビ画面にホームメニューが表示されない。

- ・テレビをHDMIテレビOUT端子に接続している場合のみホームメニューが表示できます。
- ・HOMEボタンを押してホームメニューを表示させてください。
- ・テレビが正しくつながれていることを確認してください。
- ・テレビによってはホームメニューがテレビ画面に表示されるまで時間がかかる場合があります。

## 音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい。

- ・すべてのケーブルが本機、スピーカー、その他の機器の入力／出力端子につながれていることを確認してください。
- ・本機とすべての機器の電源が入っていることを確認してください。
- ・本体前面のMASTER VOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていないことを確認してください。
- ・本体前面のSPEAKERSボタンが「SPK OFF」になっていないことを確認してください（29ページ）。
- ・ヘッドホンが本機につながっていないことを確認してください。
- ・※ボタンを押してミュート（消音）機能をキャンセルしてください。
- ・リモコンの入力ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回してお使いになる機器を選んでください。
- ・テレビのスピーカーから音声を聞いたい場合は、「<HDMI>」メニューの「AUDIO OUT」を「TV + AMP」に設定してください。マルチチャンネル音声ソースを再生できない場合は、「AMP」に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- ・再生機器からのサンプリング周波数またはチャンネル数、音声出力信号の音声フォーマットを切り替えると、音声が途切れことがあります。

オーディオリターンチャンネル機能を使って、HDMIテレビOUT（ARC）端子でつないだときにテレビの音声が出ない。

- ・「<HDMI>」メニューの「CTRL HDMI」を「CTRL ON」に設定してください。

- お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応していることを確認してください。
- お使いのテレビのオーディオリターンチャンネル機能対応の端子にHDMIケーブルがつながれていることを確認してください。

### サラウンド効果が得られない。

- サウンドフィールドに「MOVIE」または「MUSIC」が選ばれていることを確認してください（33ページ）。
- スピーカーパターンが「2/0」または「2/0.1」に設定されているときは「PLII MV」または「PLII MS」、「PLIIX MV」、「PLIIX MS」、「NEO6.CINEMA」、「NEO6.MUSIC」は働きません（14ページ）。

## エラーメッセージ

### PROTECTOR

表示窓に「PROTECTOR」の表示が出ると、数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- 本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いスピーカーをつないでいます。音量を下げてください。
- 電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
  - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファーのケーブルを抜く。

- スピーカーワイヤーの両端がしっかりとねじられていることを確認してください。
- まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。その後、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確かめる。

以上の項目を確認して問題が解決したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

## 自動音場補正測定後のメッセージリスト

### Error 30

- ヘッドホンが本体前面のPHONES端子に接続されています。ヘッドホンを取りはずしてもう一度自動音場補正を行ってください。

### Error 31

- フロントスピーカーが正しく選ばれていません。本体前面のSPEAKERSボタンを使ってフロントスピーカーを選び、もう一度自動音場補正を行ってください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「フロントスピーカーを選ぶ」（29ページ）をご覧ください。

### Error 32、Error 33

- スピーカーを検出できません。
  - フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1台しか接続されていません。
  - サラウンドLまたはサラウンドRスピーカーのどちらかが接続されていません。

- サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーが接続されていますが、サラウンドスピーカーが接続されていません。サラウンドスピーカーをスピーカーSURROUND端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーがスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B R端子にしか接続されていません。サラウンドバックスピーカーを1台だけ接続するときはスピーカー SURROUND BACK/BI-AMP/FRONT HIGH/FRONT B L端子に接続してください。
- フロントハイ Lまたはフロントハイ Rスピーカーのどちらかが接続されていません。
- 測定用マイクが接続されていません。測定用マイクが正しく接続されていることを確認してもう一度自動音場補正を行ってください。  
測定用マイクが正しくつながれているのにエラーコードが表示されるときは、測定用マイクのケーブルが破損している場合があります。

#### Warning 40

- 測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態でもう一度行うとよりよい結果が得られることがあります。

#### Warning 41、Warning 42

- マイクからの入力が過大です。
- スピーカーとマイクの距離が近過ぎます。スピーカーと測定用マイクを離して設置し、再測定してください。

#### Warning 43

- アクティブサブウーファーの距離と位置が検知されませんでした。騒音が原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

## 使用上のご注意

### 安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本体の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店または修理相談窓口にご相談ください。

### 電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。  
動作電圧は本体後面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

### 温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使い続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

### 設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を次のような所には置かないでください：
  - ぐらついた台の上や不安定な場所
  - じゅうたんや布団の上
  - 湿気の多い所、風通しの悪い所
  - ほこりの多い所

- 密閉された所
- 直射日光が当たる所、温度が高い所
- 極端に寒い所
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキに近い所  
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)
- 特殊な塗装（ワックス、油脂、溶剤など）がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

## ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンを使ったりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



音のエチケット

## 操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源プラグを抜いてください。

## お手入れのしかたについて

- キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。

- 可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

## 機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

## BLUETOOTH無線技術について

### 対応BLUETOOTHバージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(44ページ)。

## 通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

## 他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN（IEEE 802.11b/g/n）機器は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- ・本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- ・BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- ・本機とBLUETOOTH機器をできる限り近付けて置く。

## 他機器への影響

BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- ・病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- ・自動ドアや火災報知機の近く

## ご注意

- ・本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- ・BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本機と同じプロファイルを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。

- ・本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- ・本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入り、音が途切れたりすることがあります。

## 本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- 1)本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2)万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- 3)不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4 FH8

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。  
変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

本機についてご質問や問題がある場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

# 保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## アフターサービス

### 調子が悪いときはまずチェックを

本取扱説明書またはヘルプガイドの「困ったときは」の項目をご覧になり、故障かどうかを点検してください。

### それでも具合の悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DH770
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

### 部品の保有期間にについて

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

### 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

# 主な仕様

## アンプ部

実用最大出力

ステレオ出力時 (6 Ω、JEITA) :  
145 W + 145 W

サラウンド出力時 (6 Ω、JEITA、非同時  
駆動) :

フロント : 145 W + 145 W

センター : 145 W

サラウンド : 145 W + 145 W

サラウンドバック／フロントハイ :  
145 W + 145 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、  
サラウンドバック／フロントハイ :  
6 Ω ~ 16 Ω

高調波ひずみ率

0.09%以下

20 Hz ~ 20 kHz

(6 Ω 負荷)

90 W + 90 W

周波数特性

アナログ

10 Hz ~ 100 kHz、+0.5/-2 dB  
(6 Ω) (サウンドフィールド、イコ  
ライザー 不使用時)

入力

アナログ

感度 : 500 mV/50 kΩ

SN比<sup>1)</sup> : 105 dB (A、500 mV<sup>2)</sup>)

デジタル (同軸)

インピーダンス : 75 Ω

SN比 : 100 dB

(A、20 kHz LPF)

デジタル (光)

SN比 : 100 dB

(A、20 kHz LPF)

出力 (アナログ)

SUBWOOFER

電圧 : 2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

±10 dB、1 dBステップ

1) INPUT SHORT (サウンドフィールド、

イコライザー バイパス時)

2) 加重ネットワーク、入力レベル

## FMチューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 108.0 MHz (100 kHz  
ステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

## ビデオ部

入力／出力

映像 :

1 Vp-p、75 Ω

## HDMI映像部

解像度

- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、  
24 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、  
25 Hz、24 Hz
- 4K/60 Hz、50 Hz、30 Hz、  
25 Hz、24 Hz

対応

HDCP2.2、HDR、3D、Deep  
Color、ITU-R BT.2020、ARC.

## iPhone/iPod部

BLUETOOTH技術はiPhone 6s Plus、  
iPhone 6s、iPhone 6 Plus、iPhone 6、  
iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5および  
iPod touch (第5および 第6世代) に対応  
しています。

BLUETOOTH接続で「SongPal」アプリ  
を使うことができます。

iPhone/iPodをUSB接続で再生することはできません。

## USB部

対応するフォーマット\*

MP3/WMA/AAC/WAV

\*すべてのエンコード／ライティングソフトウェアおよびレコーディング機器、レコーディングメディアとの対応を保証しているわけではありません。

対応するUSB機器

マスストレージクラス

最大電流

1 A

## BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格4.2

出力

BLUETOOTH標準規格Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m<sup>1)</sup>

使用周波数帯域

2.4 GHz帯域 (2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル<sup>2)</sup>

A2DP 1.3 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)

SPP 1.2 (Serial Port Profile)

DID (Device Identification Profile)

対応コーデック<sup>3)</sup>

SBC<sup>4)</sup>、AAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲 (A2DP)

20 Hz~20,000 Hz (サンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、48 kHz)

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。
- 2) BLUETOOTH標準プロファイルは機器間のBLUETOOTH通信のためのものです。
- 3) コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。
- 4) Subband Codecの略です。

## 一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

180 W

消費電力 (スタンバイ時)

0.3 W 以下 (「CTRL HDMI」が「CTRL OFF」に、「STBY THRU」が「OFF」に、「BT STANDBY」が「STBY OFF」に設定されているとき)  
0.5 W (「CTRL HDMI」が「CTRL ON」に、「BT STANDBY」が「STBY ON」に、「STBY THRU」が「OFF」に設定されているとき)

寸法 (幅／高さ／奥行き) (約)

430 mm × 156 mm × 329.4 mm  
(最大突起部を含む)

質量 (約)

7.8 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。







## サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/audio/>

## 「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<http://www.sony.jp/support/faq.html>

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは  
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

### 使い方相談窓口

フリーダイヤル ..... 0120-333-020  
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ..... 050-3754-9577

### 修理相談窓口

フリーダイヤル ..... 0120-222-330  
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ..... 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこれらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、  
最初のガイダンスが  
流れている間に  
「306」+「#」  
を押してください。  
直接、担当窓口へ  
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for



iPod



iPhone

HDMI



\* 4 5 8 4 0 7 9 0 3 \* (1)